

## いわき農林事務所ニュース

2007年 2月号



### ◎活動状況

- ・ [こだわり山の幸レベルアップ講習会](#)
- ・ [いわき地方山火事防止対策協議会総会](#)
- ・ [渡辺小「田んぼの学校」その12](#)
- ・ [鳥インフルエンザ防疫対策研修会](#)
- ・ [いわき地方男女参画推進セミナー](#)
- ・ [いわき地方緑と農のイベント情報!](#)

### ◎トピックス

- ・ [いわき市水田農業推進協議会](#)
- ・ [集落営農の推進に向けて](#)
- ・ [児童と生産者の交流会 \(三阪小学校\)](#)
- ・ [食と農を語る会 in いわき市](#)

## 活動状況

### ○「こだわり山の幸」レベルアップ講習会を開催！

1月15日(月)、きのこと類の栽培方法の普及を図るとともに、新たな栽培品目の普及・販売等について学ぶことを目的として、『「こだわり山の幸」レベルアップ講習会』を県いわき合同庁舎で開催しました。

講習会では、うつくしま「食」「農」サポーターで、農産物直売所「彩花園」を運営している遠藤美喜子さんに、オーナー制度を導入した新たな栽培品目の普及、試食会の開催、販路の開拓や拡大などの取り組み、さらにこれから新たに挑戦したいことなどを講演していただきました。また、県林業研究センター古川成治主任研究員には、直売所出荷に向けたきのこと類の栽培方法について、シイタケ、ナメコ、ハタケシメジなどの栽培方法や各きこの年間栽培スケジュール、直売所出荷への工夫などをわかりやすくお話していただきました。



レベルアップ講習会の様子



当日は、特用林産物生産者や森林ボランティアのほか、直売所運営者、さらには直売所運営に興味のある方(かた)など33名が参加し、お二人の講演に熱心に聞き入っていました。参加者からは、「消費者になじみの薄い作物を販売する際のPRの重要性を感じた」、「今回聞いた栽培方法のポイントを帰って実践したい」などの感想が聞かれました。

遠藤さんの講演が終わったあと、会場で、遠藤さんがつくったきびだんご(もろこしだんご)、白菜キムチの試食を行いました。また、それぞれの講演終了後、新たな作物を栽培する

きびだんご（もろこしだんご）の試食 ようになった経緯や栽培技術に関する具体的な質問など、活発な意見交換が行われました。

当講習会を契機として、新たな栽培品目の検討や山の幸の販売等について、今後のレベルアップが期待されます。



1月16日（火）、いわき地方山火事防止対策協議会の通常総会が開催されました。この協議会は、いわき地方の山火事に対する市民の関心を喚起し、山火事の発生を防止することを目的に管内の消防署や森林組合など18の関係機関で構成されています。当日の総会では、会計報告などのほか、毎年行(おこな)っている山火事防止パレードの日程やコース等も決定されました。

山火事は空気が乾燥しやすく、入山者が多い時期に多発していますが、原因はタバコの投げ捨てやたき火の不始末など、そのほとんどが人の不注意によるもので、当管内では3～4月の春先に最も多く発生しています。そこで、今年は3月22日～4月20日を春期の山火事予防強化月間として設定し、3月22日に第1回、4月5日に第2回の山火事防止パレードを行うこととしました。

なお、今年度の山火事防止の統一標語は、「伝えたい 森のやさしさ 火のこわさ」です。貴重な森林資源を山火事から守るため、関係者一同、これからも継続して山火事予防の普及啓発活動を行っていききたいと思っておりますので、皆様の御協力をお願いします。

1月23日（火）、いわき市渡辺町の渡辺小学校「田んぼの学校」において、「引継式・開校式」を行い、1年間取り組んだ5年生14名から、4年生18名へバトンを渡しました。その後、早速4年生は第1回目の活動を行いました。

「引継式・開校式」では、渡辺小学校長と田んぼの学校長の話の後、5年生一人一人に修了証書が授与されました。修了証書には、それぞれ異なる活動写真が添付され、お互いに見せ合いながら、今までの活動を振り返っていました。その後、5年生代表が「いろいろな活動があり、楽しかった。応援団の方々への感謝の気持ちを忘れない。」と感想を述べ、シンボルだった「田んぼの学校旗」を、5年生から4年生へ引き継ぎました。続いて、4年生代表が「5年生のように力を合わせて頑張りたい。」と応え、4年生全員が豊年太鼓を披露しました。最後に、地元の方(かた)から手作りの甘酒が振る舞われました。

その後、4年生は田んぼへ移動し、第1回目の活動として「畦畔づくり」を行いました。掘った土の中に大量のイトミミズとドジョウが混じっており、児童たちは今まで先輩たちが取り組んできた「環境にやさしい米(こめ)づくり」を肌で感じました。畦畔ができあがったところで、これから1年間お世話になる田んぼに「水入れ」を行いました。水が田んぼ全体に行き渡っていく中を走り回り、初回からどろんこになる児童もあり、今後の活動が楽しみです。



修了証書を手記念撮影

次回は、ユニフォームである「田んぼの学校Tシャツづくり」を4月に行います。

## ○高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会開催

1月25日(木)、高(こう)病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会が福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部の主催で県いわき合同庁舎において開催されました。

この研修会は、いわき地方対策本部を立ち上げた場合の具体的な業務を確認するために行(おこな)ったもので、本部を構成する機関の担当者など約50名が参加しました。

マスコミでも報道されているとおり、世界各地で高(こう)病原性鳥インフルエンザが発生しています。国内においても、今年になり死亡した鶏からH5亜型のA型インフルエンザウイルスが分離され、高(こう)病原性鳥インフルエンザの発生が確認されており、発生した地域では、鶏、鶏卵等の移動を制限する移動制限区域の設定、発生農場での鶏舎等の消毒や鶏の殺処分が行われ、現在、農場等の清浄性確認検査や感染経路を解明する調査が進められています。研修会では、地方対策本部の体制や発生時の初動マニュアルを確認するとともに、県いわき家畜保健衛生所の獣医師を講師としてスライドによる防疫作業の説明、ウイルスへの感染防止のために着用する防護服やゴーグルの着脱演習を行いました。参加者は、映像による説明や実習を通じて防疫作業に対する理解を深めることができました。



防護服の着脱演習

万が一、県内で鳥インフルエンザが確認されたときには、副知事を本部長とする福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザ対策本部が、また地方組織として農林事務所長を本部長とする地方対策本部が設置され、市民の健康対策や家畜の防疫対策、畜産農家への支援等を行います。

## ○男女共同参画推進セミナーを開催！ ～男女がともに輝く地域を目指して～

1月25日(木)、いわき地方男女共同参画推進セミナーをいわき新舞子ハイツにおいて開催しました。市内の農業委員、認定農業者、JA女性部等、約70名が参加し、講演や意見交換を通し、農業・農村における男女共同参画の一層の推進を図りました。

まず、前飯館村農業委員会長の佐野ハツノさんから、「女性の地域参画と農業・農村の活性化」と題して講演をいただきました。飯館村で初の女性農業委員に就任し、女性が委員になったことによる一部の反発は感じながらも自分の意見は述べ、農業委員の活動に取り組んできた経験を踏まえて、様々な壁にあきらめず、主体性のある生き方をと訴えました。また、現在は、農家民泊「までい民宿どうげ」を営み、村内外に対して「飯館流スローライフのすすめ」を行(おこな)っている取り組みの紹介がありました。

次に、大玉村で「森の民話茶屋」を営む後藤(ごとう)みづほさんから、「民話の中の女性たち」と題して講演をいただきました。語り部である後藤(ごとう)さんからは、昔の女性の生き方や立場について民話を通じてお話いただき、現代は女性にとって活動しやすい環境が整いつつあるので自分らしく生きよう、と会場内の参加者に対してエールが贈られました。また、女性が一步前に入るにあたっては、男性側の理解とともに、周りの女性が応援してあげることが重要とのお話がありました。

最後に、会場内の意見交換を通して、男女がともに生き生きと活動できる地域づくりに向けて理解が深まり、実りあるセミナーとなりました。

## ○いわき地方“緑”と“農”のイベント情報！

## ①平成18年度いわき地方果樹生産振興セミナー開催のお知らせ

◇日時	平成19年3月7日(水) 13:30~16:00
◇場所	いわき新舞子ハイツ多目的ホール
◇内容講演	①講演 「果樹カメムシの生態と防除法」 「ナシシンクイタマバエ(仮称)の発生実態と今後の対応」 「消費者の信頼を得るための産地づくり~GAPの実践について」 ②各種生産資材などの展示(多目的防除網、肥料、生物農薬等)
◇参加申込	2月28日(水)までに電話またはFAXで下記までお申し込みください。 いわき農林事務所農業振興部 TEL(でんわ)24-6154 FAX 24-6159 JAいわき市第3営農経済センター TEL(でんわ)83-1122 FAX 83-1123
◇参加費	無料
◇主催	福島県いわき農林事務所 ふくしま21いわき地方園芸特産推進本部 全国農業協同組合連合会福島県本部浜通り営農事業所

## ②「こだわり山の幸交流会」開催のお知らせ

◇日時	平成19年3月17日(土) 8:30~14:00
◇集合	県いわき合同庁舎 (いわき市平字梅本(うめもと)15番地) 午前8:30
◇内容及び体験場所	①シイタケの植菌・収穫体験(いわき市大久(おおひさ)町地内) ②シイタケの料理教室(大久(おおひさ)公民館料理実習室) ※小雨決行。雨天の場合は、収穫・料理教室のみ行います。
◇講師	新妻衛さん、ハツ子さん(乾シイタケ生産者)
◇参加費	無料
◇申込方法	電話、ファックスまたは郵送でお申し込みください。ファックスまたは郵送の場合は、チラシ表の申込み用紙に必要事項を記入のうえ送付願います。
◇募集人数	いわき市在住の親子15組30名程度(お子さんは小学生対象) ※応募者多数の場合は抽選とします。
◇応募〆切(しめきり)	平成19年3月5日(月)必着
◇服装及び準備物	動きやすく汚れても良い服装、歩きやすい靴、雨具、タオル、着替え(汚れた場合)、飲み物、エプロン、三角巾、上履き(スリッパ等)をご持参ください。
◇保険	主催者側でボランティア保険に加入します。
◇その他	広報に使用するため写真撮影を行います。また、撮影した写真は県発行の広報誌・ホームページなどで使用する場合がありますのでご了解願います。

◇主催  
申し込み・問い合わせ  
先

福島県いわき農林事務所 森林林業部  
郵便番号：970-8026  
住所：いわき市平字梅本(うめもと)15番地  
担当者：川口  
TEL(でんわ) 24-6194, FAX 24-6179

## トピックス

### ○いわき市水田農業推進協議会が開催される



協議会の様子

1月22日(月)、いわきワシントンホテル椿山荘において、「いわき市水田農業推進協議会」が開催されました。

米(こめ)政策改革については、平成14年に策定された「米(こめ)政策改革大綱」や平成17年に策定された「経営所得安定対策等大綱」に基づき、平成22年度までに「米(こめ)づくりの本来あるべき姿」の実現に向けて、需給調整対策、流通制度、関連施策等の改革が進められています。

これまで、米の需給調整は、生産数量目標を国が決定し、県、市町村を通じて農業者に配分されておりましたが、平成19年度からは、「農業者・農業者団体が主体となる需給

調整」に移行するため、協議会において算定された、米の需要量に関する情報に基づき、生産調整方針作成者(JA等)が自ら、生産数量目標を決定し、農業者に配分することとなります。これを受けて、協議会においては、会長をいわき市長からいわき市農業協同組合経営管理委員会会長に変更するなど、体制を見直すことが決定されました。

平成19年産のいわき市の米の需要量に関する情報は、19,376.514トンと、平成18年産と比較して約162トン減少するという厳しい状況となっていますが、農業者への生産数量目標は、担い手である大規模生産者に対して重点的に配分するという、配分の一般ルールが決定されました。

また、水田における水稻以外の作物作付や担い手への集積の取組みに対して交付される「産地づくり交付金」の用途については、平成18年度の10項目から、平成19年度には6項目に絞って、重点的な支援を行うことが決定されました。

今後は、協議会が策定している「水田農業ビジョン」の実現に向けて、関係機関・団体と農業者が一体となって、水田農業改革に取り組んでいくこととなります。

### ○集落営農の推進に向けて～集落営農シンポジウム・集落座談会の開催～

1月23日(火)、いわき市地域担い手育成支援協議会主催の集落営農シンポジウムが報徳苑(内郷)で開催されました。「いわき市における集落営農の大きな可能性を求めて」をテーマにしたシンポジウムには、集落営農の取組推進に向け、多数の農業者の方(かた)が参加し、集落内での話し合いの大切さや集落営農について理解を深めました。

また、これらの推進活動と併せて、集落での話し合い、座談会開催を協議会の構成機関が連携し支援しています。座談会では、ビデ

オによる集落営農の先進事例研修や集落における年齢構成、さらには機械の保有状況などを検討材料として集落の課題や今後の集落の農業について話し合いが進められており、今後、各集落の継続した話し合いの中から、それぞれの地域に合った元気の出る集落営農の仕組みづくりができあがるものと期待されます。



シンポジウムの様子



机を囲んでの楽しい給食

1月23日(火)、三和(みわ)町の三阪小学校において、学校給食を通して生産者と児童がふれあう交流会がいわき市農業生産振興協議会の主催で開催されました。三和(みわ)町では、給食に地元農産物を提供する取り組みを平成15年から行っており、今回は、顔の見える農業、地産地消、食農教育を推進するため開催されたもので、全校児童、教職員、生産者、保護者など108名が参加しました。

当日の献立は、ご飯、いもがらのみそ汁、マーボー厚揚げ、牛乳、イチゴの5品で、このうち、米(ふくみらい)、いもがら、ニンジン、ハクサイ、ダイコン、ジャガイモ、大豆は、地元三和(みわ)産を使用し、デザートはイチゴもいわき産で、"地

産地消"給食そのものでした。

参加した生産者は12名で、各学年ごと2名ずつに分かれ、児童と一緒に配膳等の準備を行い、給食時には使用した農産物を教室に持参し、面白く説明するなど児童と給食を楽しみました。児童は、おいしい給食を提供してくれる生産者へ、手紙を贈って感謝の気持ちを表していました。

久々の給食を楽しんだ生産者は、児童からの感謝の言葉に大変感激し、学校給食への地元農産物の供給に思いを強くした様子で、更なる地産地消の推進が期待されます。

1月31日(水)、東北農政局主催の「食と農を語る会 in いわき市」がいわき市総合保健福祉センター多目的ホールにおいて開催され、約160名が参加しました。

語る会は、「食料自給率の向上を目指して ～豊かな地場産食材を学校給食へ～」をテーマに、地域の食と農のあり方について理解を深めるため開催されたもので、食料自給率向上に向けた取組みの説明、地域関係者からの意見発表、意見交換が行われました。

意見発表では、学校給食への地場産食材の活用、伝統的な郷土食の継承と地産地消普及への取組み、地元中学校との職場体験の取組み、安心・安全な農産物の学習会や地元食材を使った調理実習・イベントについて、市内で活躍される皆様からそれぞれの立場で意見をいただきました。

意見交換では、給食を通して地場農産物や郷土食・伝統食、地産地消が広まることへの期待や、エコファーマーなど環境にやさしい農業のPRの必要性など、活発な議論が行われ、今後の食料自給率向上に向けた取組みの推進が期待されます。

[◀ もどる](#)

[すすむ ▶](#)

[ [▲Top](#) | [福島県トップページ](#) | [いわき農林トップページ](#) ]